

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取り組み	行動計画
笑顔あふれる明るい安心の街 桜木！	支え合い頼れる街づくり	高齢者・障がい児・者について	高齢者の孤立防止と社会参加	日頃の近所づきあいが減っているため、希薄。 サロン活動の高齢化・固定化が目立つ。	<ul style="list-style-type: none"> 世代を越えて、幅広い住民が話し合えるような場所の提供。 高齢者の地域力を高める「老人会」の名称を再考する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者サロンの広報活動を活性化（例：合同サロン開催については校区全域に回覧板等で知らせる） サロンの内容を関係機関の助言を頂いて魅力的なものにする。 サロン後半に「おしゃべりタイム」を設ける。 さくらカフェ（全校区対象）・・・月2回 男の体操教室（全校区対象）・・・月3回 姿勢リセット体操教室（全校区対象）・・・月1回 ひまわりサロン（1, 2町内）・・・月1回 花立公園サロン・健康講座(3町内）・・・月1回 いきいきサロン（4, 5町内）・・・月1回 障がいの理解を促していく。
			認知症高齢者に対する理解	情報が少ないため、存在がわからない。		
			高齢者の体力維持と健康問題	体力・健康に自信がない高齢者は外に出てこない。		
			高齢者の経済的問題と生活困窮	周りから口に出して聞けずデリケートな問題。 一般的な話しかできない。		
			障がい児・者に対する理解	障がい児・者の存在がわからない。 「障がい」という言葉の使用が必要か否か。		
	子どもは宝！伸び伸びと楽しめる子育ての街	子ども・子育てについて	子どもの人権（いじめ、不登校、虐待、ひきこもり）	少子化や保護者の意識の変化で地域と子ども達が分断されている。	<ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ運動」を真剣に考え直す。 子育て世代と高齢者世代との交流の場をつくる。 子育てのつどい（さくらクラブ）の周知を図り宣伝する。 子育てネットワークの活動を活性化し、子育てのつどいを中心とした活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども参加型のイベント拡充、決まったら確実に情報が伝わるようにする。 大人から子どもへ・子どもから大人へ、大人同士で「あいさつ運動」を定着させる。 「向こう三軒両隣」の意識を再確認する。 子育てのつどい（さくらクラブ）と高齢者サロンを合同で実施する機会を設ける。
			子ども・子育て家庭の見守り	子ども達から「ふるさと」の意識が消えつつある。 若いお母さんなど子育て世帯への見守りや声掛けが必要。		
			子ども・子育て家庭の孤立と貧困問題	子育て家庭の孤立 子育てのつどい（さくらクラブ）認知度が低い。		
			学校と地域の連携 世代間交流について	PTAがなくなった代わりに保護者会ができたがいまいちどういうことを取り組むのかははっきりしない。		
	協力しあえる住民同士の絆づくり	災害・防災について	平常時における災害の備えと避難支援体制の構築	要援護者がどこに住んでいるのかは誰も知らない。 具体的な避難訓練が行われていない。	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災クラブの活動を本格化する。 災害弱者の情報を可能な限りオープン化する。 防災訓練等を利用して顔見知りになる機会をつくる。 防災訓練等では障がいのある方の視点を大事にする。 各町内の自主防災クラブの発表・体験見学。 いままでに桜木校区で起こった災害を知る。 海外出身者の所在地を可能な限り把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治協・自治会を中心に具体的な防災訓練の準備。 住民が参加したくなるような訓練を計画する。（例：炊き出しがある、参加賞をもらえる等）
			防災に対する地域住民の意識づけ	隣近所で話す場所がない。		
			災害時における避難支援			
避難訓練の実施						
お互いがお互いを理解する共助の街	その他・地域が抱える課題について	環境と治安（ゴミステーション・騒音トラブル）	地域住民同士があいさつをしていない。 校区内各団体の活動内容が共有されていない。	<ul style="list-style-type: none"> 自治会、各団体が情報を積極的に出す。 若い住民に役割を担ってもらおう。 町内自治会の最少単位である班長会や運営委員会を活性化させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治協の役員だけの会合ではなく、各団体を交えた会議実施を目指す。 「みんな一役運動」を展開する環境を目指す。 	
		地域役員の担い手不足	校区内に居住する海外ルーツの人たちの情報がない。			
		地域団体間における連携				
		転入者に対する交流など				
		空き家、空き地、ごみ屋敷				